

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

Guide for curved window pane in motor vehicle door - has guide rails, which are curved in two directions
 Patent Assignee: BROSE FAHRZEUGTEILE GMBH & CO; BROSE FAHRZEUGTEILE GMBH & CO KG
 Inventors: HOFMANN G; WEBER H

Patent Family

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Week	Type
DE 19504781	C1	19960822	DE 1004781	A	19950214	199638	B
WO 9625580	A1	19960822	WO 96DE286	A	19960213	199639	
BR 9606952	A	19971028	BR 966952	A	19960213	199750	
			WO 96DE286	A	19960213		
EP 809747	A1	19971203	EP 96903889	A	19960213	199802	
			WO 96DE286	A	19960213		
EP 809747	B1	19980729	EP 96903889	A	19960213	199834	
			WO 96DE286	A	19960213		
DE 59600385	G	19980903	DE 500385	A	19960213	199841	
			EP 96903889	A	19960213		
			WO 96DE286	A	19960213		
ES 2122797	T3	19981216	EP 96903889	A	19960213	199906	
JP 11500796	W	19990119	JP 96524585	A	19960213	199913	
			WO 96DE286	A	19960213		
KR 98702289	A	19980715	WO 96DE286	A	19960213	199927	
			KR 97705686	A	19970813		
US 5946860	A	19990907	WO 96DE286	A	19960213	199943	
			US 97894135	A	19970812		
MX 9706215	A1	19980201	MX 976215	A	19970814	199954	
KR 253989	B1	20000415	WO 96DE286	A	19960213	200124	
			KR 97705686	A	19970813		
CN 1174586	A	19980225	CN 96191926	A	19960213	200171	
MX 199271	B	20001026	MX 976215	A	19960213	200212	

Priority Applications (Number Kind Date): DE 1004781 A (19950214)

Cited Patents: DE 2624028; EP 64135

Patent Details

Patent	Kind	Language	Page	Main IPC	Filing Notes
DE 19504781	C1		11	B60J-001/17	
WO 9625580	A1	G	29	E05F-011/48	
Designated States (National): BR CN JP KR MX US					
Designated States (Regional): AT BE CH DE DK ES FR GB GR IE IT LU MC NL PT SE					
BR 9606952	A			E05F-011/48	Based on patent WO 9625580
EP 809747	A1	G		E05F-011/48	Based on patent WO 9625580
Designated States (Regional): DE ES FR GB IT SE					
EP 809747	B1	G		E05F-011/48	Based on patent WO 9625580
Designated States (Regional): DE ES FR GB IT SE					
DE 59600385	G			E05F-011/48	Based on patent EP 809747
Based on patent WO 9625580					
ES 2122797	T3			E05F-011/48	Based on patent EP 809747
JP 11500796	W		31	E05F-011/48	Based on patent WO 9625580
KR 98702289	A			E05F-011/48	Based on patent WO 9625580
US 5946860	A			E05F-011/38	Based on patent WO 9625580
MX 9706215	A1			E05F-011/48	
KR 253989	B1			E05F-011/48	
CN 1174586	A			E05F-011/48	
MX 199271	B			E05F-011/48	

Abstract:

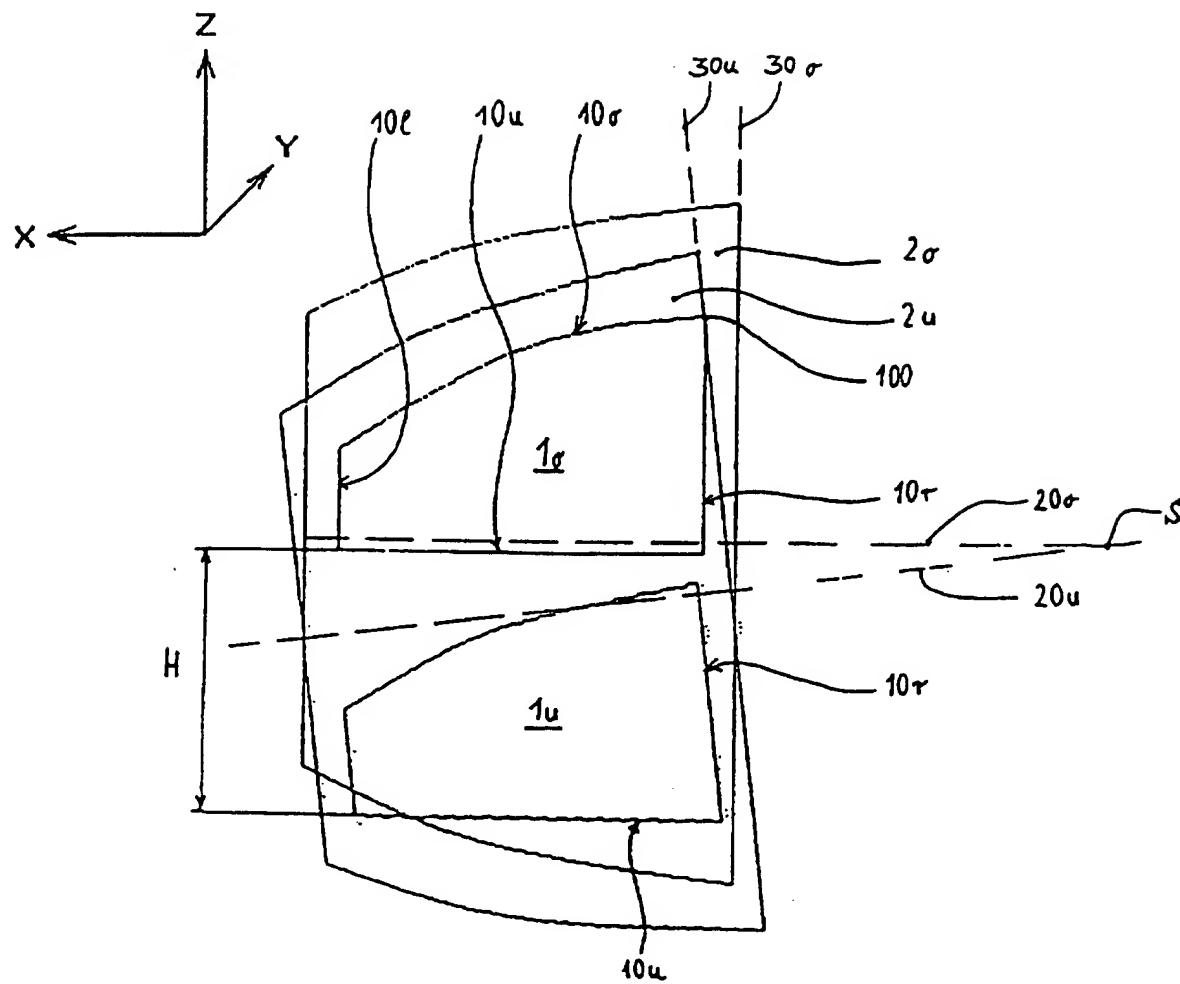
DE 19504781 C

The window pane is lowered and raised in two guide rails. Each guide rail has a second curvature, at right angles to a first one. Due to this, a pivot movement about a centre of gravity, which maintains the lower pane edge in a parallel position, is superimposed on the movement path of the pane.

The pane is moved along a fictitious barrel-shaped jacket surface, which is simultaneously pivoted into the movement direction of the pane. During the movement between extreme positions, three points, esp. corner points of the window pane, are constantly located on the jacket surface, which is associated with the pane in one of the extreme positions.

USE/ADVANTAGE - Guide mechanism for curved window pane in motor vehicle door guarantees precise parallel movement of lower window pane edge, even if this has a strong spherical curve.

Dwg.1a/8



Derwent World Patents Index

© 2002 Derwent Information Ltd. All rights reserved.

Dialog® File Number 351 Accession Number 10875099

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I
E 0 5 F 11/48
B 6 0 J 1/17

DB

(21)出願番号	特願平8-524585
(86) (22)出願日	平成8年(1996)2月13日
(85)翻訳文提出日	平成9年(1997)8月13日
(86)国際出願番号	PCT/DE96/00286
(87)国際公開番号	WO96/25580
(87)国際公開日	平成8年(1996)8月22日
(31)優先権主張番号	195 04 781. 8
(32)優先日	1995年2月14日
(33)優先権主張国	ドイツ(DE)
(81)指定国	EP(AT, BE, CH, DE, DK, ES, FR, GB, GR, IE, IT, LU, M C, NL, PT, SE), BR, CN, JP, KR, M X, IIS

(71)出願人 ブローゼ ファールツォイクタイレ ゲゼルシャフト ミット ベシュレンクテル ハフツング ウント コンパニー コマンディートゲゼルシャフト
ドイツ連邦共和国 D-96450 コーブルク ケチェンドルファー シュトラーセ 38-50

(72)発明者 ホルスト ヴェーバー
ドイツ連邦共和国 D-95339 ヴィルス ベルク ノイファンク 8

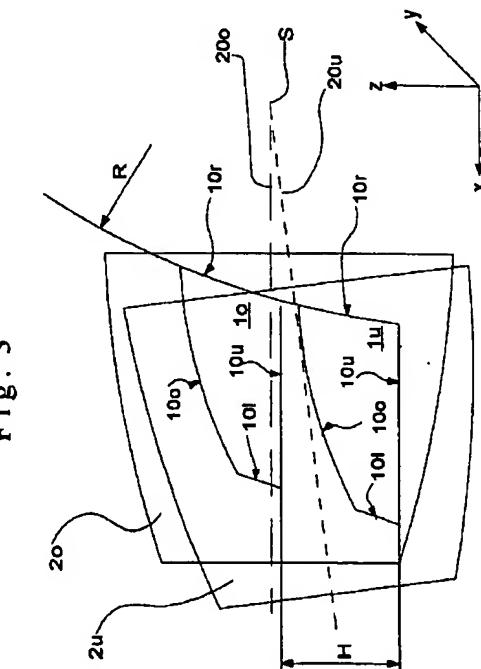
(74)代理人 弁理士 矢野 敏雄 (外3名)

最終頁に統ぐ

(54)【発明の名称】車両ドア内を降下可能な球面状に湾曲されたウインドガラス用の板ガラスガイド

(57) 【要約】

本発明は、球面状に湾曲されたウインド板ガラス用の板ガラスガイドであって、前記ウインド板ガラスが、車両ドアのドア胴内へ下降可能でありかつ実質的に、車両長手方向の仮想樽形包絡面の構成部分を成し、かつドア胴内に取付けられたダブルストランド・ケーブル式ウインドリフタによってほぼ車両立軸方向にシフト可能である。前記ケーブル式ウインドリフタのガイドレールは、車両横方向の板ガラス曲率に適合された第1湾曲部と第2湾曲部を有しており、従ってウインド板ガラス(1, 1o, 1u, 1', 1", 1"')のガイド縁(10r, 10r', 10r", 10r"')からX軸方向に隔てて位置する旋回支点(P, P', P", P"')を中心とする、板ガラス下縁を平行に維持する旋回運動がウインド板ガラス(1, 1o, 1u, 1', 1", 1"')のシフト運動に付加的に重疊されている。前記ウインド板ガラス(1, 1o, 1u, 1', 1", 1"')がこれに沿ってシフトされるところの仮想樽形包絡面(2o, 2u)は、前記ウインド板ガラス(1, 1o, 1u, 1', 1", 1"')のシフト方向に同時に



【特許請求の範囲】

1. 球面状に湾曲されたウインド板ガラス用の板ガラスガイドであって、前記ウインド板ガラスが、車両ドアのドア胴内へ降下可能でありかつ実質的に、車両長手方向つまりX軸方向の仮想樽形包絡面の構成部分を成し、かつドア胴内に取付けられたダブルストランド・ケーブル式ウインドリフタによってほぼ車両縦軸方向つまりZ軸方向にシフト可能であり、前記ケーブル式ウインドリフタのガイドレールが、車両横方向つまりY軸方向の板ガラス曲率に適合された第1湾曲部を有しつつ両端部に、閉じたケーブルループを案内するケーブル変向ガイド機構を支持しており、前記ケーブルループが、前記ガイドレールに沿って案内されるウインド板ガラス用の連行子と固定的に結合されておりかつ駆動ユニットに接続されている形式のものにおいて、両ガイドレールが付加的に、第1湾曲部に対して横方向に夫々第2湾曲部を有し、ウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') のガイド縁 (10r, 10r', 10r", 10r"') からX軸方向に間隔をおいて位置する旋回支点 (P, P', P", P"') を中心とする、板ガラス下縁を平行に維持する旋回運動がウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') のシフト運動に付加的に重畠さ

れるようになっており、しかも前記ウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') が仮想樽形包絡面 (2o, 2u) に沿ってシフトされ、同時に該仮想樽形包絡面 (2o, 2u) が前記ウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') のシフト方向に旋回し、かつ両極限位置間におけるシフト運動中、前記ウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') の3点、特に該ウインド板ガラスの3つの角隅点が常時、一方の極限位置におけるウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') に対して対応関係にある仮想樽形包絡面 (2o, 2u) 上に位置していることを特徴とする、球面状に湾曲されたウインド板ガラス用の板ガラスガイド。

2. ウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') がシフト運動中に旋回する旋回支点が、移動する瞬間極点 (P', P", P"') である、請求項1記載の板ガラスガイド。

3. ウィンド板ガラス (1o, 1u) のガイド輪郭 (10r) が旋回平面内で湾曲されており、かつガイドレールの対応したガイド輪郭、又は無枠ドアの場合には車体の隣接輪郭が、前記ウィンド板ガラスのガイド輪郭に相応して湾曲されており、しかも X 軸 - Z 軸平面内に投影された湾曲部が、ウィンド板ガラス (1o, 1u) の作動時にウィンド板ガラスの

ガイド線の 2 つの基準点がシフトして描く円区分を形成する、請求項 1 記載の板ガラスガイド。

4. ウィンド板ガラス (1o, 1u) の最上位の角隅点 (100o) と最下位の角隅点 (100u) のガイド線 (10r) の基準点がガイドライン上に位置している、請求項 3 記載の板ガラスガイド。

5. X 軸 - Z 軸平面内に投影されたガイドレール輪郭が、板ガラス作動中に樽形のウィンド板ガラス (2o, 2u) を、シフト運動及び旋回運動以外に付加的に X 軸方向に前進変位運動させるように湾曲されている、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項記載の板ガラスガイド。

6. ガイドレールが螺旋形に成形されており、これに基づいて、重畠する運動、つまり樽形のウィンド板ガラス (2o, 2u) の旋回運動と X 軸方向の前進変位運動が螺旋を描く、請求項 5 記載の板ガラスガイド。

【発明の詳細な説明】

車両ドア内を降下可能な球面状に湾曲されたウィンド板ガラス用の板ガラスガイド

技術分野

本発明は、請求の範囲の請求項1に発明の上位概念として記載したように、ドア胴内へ降下可能な、球面状に湾曲されたウィンド板ガラス用の板ガラスガイドに関する。

背景技術

前記板ガラスガイドは、ダブルストランド・ケーブル式ウインドリフタのガイドレールを特別に構成することによって、かつ場合によっては原則として過剰経費をかけずに微々たる改変作業により車体に対して、理想的にはウィンド板ガラスのガイド輪郭に対して適合させることによって、このようなケーブル式ウインドリフタの使用を可能にするが、しかしながら該ケーブル式ウインドリフタは、その厳格な平行引込みの故に、ガイドレールの領域において著しく異なった曲率半径を有するウィンド板ガラスを昇降させるためには概ね適していない。

互いに逆向きに循環する2本の閉じたケーブルループを備えた車両ウィンド板ガラス昇降装置が、ドイツ連邦共和国特許出願公開第4008229号明細書に

基づいて公知になっており、この場合2つのケーブルドラムが別々の平行な軸に軸支されかつ摩擦式又は噛合式に互いに係合している。両ケーブルドラムの内的一方が手動操作によってか又は電気ユニットによって駆動される。両ケーブルループは夫々、実質的に鉛直なガイドレールに沿って、該ガイドレールの両端に設けられたケーブル変向ガイド機構を介してガイドされる。

この公知の板ガラス昇降装置の1実施形態によれば、異なった直径を有するケーブルドラムのコンビネーションが提案されており、このコンビネーションによって適當な变速比が両ケーブルループ間に生じる。従って、球面状に湾曲されたウィンド板ガラスの特殊な引込みガイド条件に対するウインドリフタの適合が可能になる。より小さな板ガラス曲率半径の側には、より低いシフト速度並びにより小さなシフト距離の連行子を有するガイドレールが配置され、またより大きな

板ガラス曲率半径の側には、より高いシフト速度並びにより大きなシフト距離の連行子を有するガイドレールが配置されることになる。

しかしながらこの場合、球面状に強く湾曲されたウインド板ガラスを前記のウインドリフタによって調節するために必要になる技術経費が比較的高いという欠点がある。しかもケーブルループ及びケーブルドラムのダブル構成によって、更高的経費高が惹起されるこ

となる。

曲率を適合された2つのガイドレールを有し、かつウインドリフタの作動中に等長の行程を辿る連行子（滑子）を備えた慣用のダブルストランド・ケーブル式ウインドリフタによって、球面状に湾曲したウインド板ガラスを調節することは、ウインド板ガラスの降下時に傾動運動を招来し、ひいてはウインド板ガラスが少なくとも1点でドア胴と摩擦接触することになる。これによってウインドリフタ系内及びドア胴内にロックが生じる。更に又、リフタ系内摩擦の増大は高い駆動モーメントを必要とし、従ってより強力、より高価なモータを必要とするという欠点がある。

発明の開示

本発明の課題は、ダブルストランド・ケーブル式ウインドリフタを備えた車両ドアを改良して、ウインド板ガラスが球面状に強く湾曲している場合でも、高価な付加手段もしくは付加部品を設けることなしに、板ガラス下縁の、申し分の無い正確な平行ガイドを保証することである。

前記課題を解決するための本発明の構成手段は、請求項1の特徴部分に記載したように、両ガイドレールが付加的に、第1湾曲部に対して横方向に夫々第2湾曲部を有し、ウインド板ガラスのガイド縁からX軸方向に隔てて位置する旋回支点を中心とする、板ガラス下縁を平行に維持する旋回運動がウインド板ガラスの

シフト運動に付加的に重畠されるようになっており、しかも前記ウインド板ガラスがこれに沿ってシフトされるところの仮想樽形包絡面が、前記ウインド板ガラスのシフト方向に同時に旋回し、かつ両極限位置におけるシフト運動中、前記

ウインド板ガラスの3点、特に該ウインド板ガラスの3つの角隅点が當時、一方の極限位置におけるウインド板ガラスに対して対応関係にある仮想樽形包絡面上に位置している点にある。

本発明の有利な実施形態は請求項2以降に記載されている。

Y軸方向に湾曲された、つまり板ガラスの湾曲に適合された在来のガイドレールを出発点とする本発明のガイドレールは、シフト方向に対して横方向の湾曲部を附加的に有している。2軸方向に湾曲されたガイドレールの構成は、ウインド板ガラスのシフト運動に、ウインド板ガラスのガイド縁から間隔を隔てて位置する極点を中心とする旋回運動を附加的に重畠するように選ばれている。はっきり云えば、仮想の樽形包絡面（該樽形包絡面の構成部分が、球面状に湾曲したウインド板ガラスに他ならない）がウインド板ガラスのシフト時に同時にシフト方向に旋回する。要するに例えばウインド板ガラスの降下時に前記の仮想樽形包絡面が同じく下方に向かって旋回する訳である。この手段によって本発明は、ウインド板ガラスが、閉鎖した板ガラス初期位置の包絡面内における理想的な均質状態

から離脱した後に、この（初期の）樽形包絡面上に常に3点でもって位置し、こうしてほぼ理想的なシフト運動を行うことを保証するのである。

多数の技術的な適用ケースにおいて樽形のウインド板ガラスをシフトさせるために、1つの定位旋回支点を設ける必要はなくなる。概してこの旋回支点は、移動する瞬間極点である。

前記の瞬間極点の位置、特にウインド板ガラスのガイド縁からの瞬間極点の距離は多数のパラメータに関連している。重要な影響量は次の通りである：

- a) 樽形形状（より円筒形に近いか又はより球形に近い）、
- b) ウインド板ガラスの引込みガイドライン（該引込みガイドラインは板ガラス切断縁—大抵はBピラー寄りの板ガラス切断縁—に合致することができる）、
- c) 樽形包絡面のZ軸からの前記引込みガイドラインのX軸方向の角度偏差値、
- d) 板ガラス行程、及び
- e) 樽形包絡面の鏡面対称的なZ軸に対するウインド板ガラスの位置。

現時点では、移動する瞬間極点の位置に対する前記影響量乃至ファクタの量的作用を表示することは不可能である。目下の所、本発明の車両ドアを構成するためには反復的設計法が最も適していると思料されるが、原則として次の事項から出発することができる：

1) 板ガラスに樽形包絡面の鏡面対称軸線が交わらない場合、樽形形状が球体に近くなるに応じて、要するに円筒形状から偏差が大きくなるに応じて、板ガラスは強く旋回し、板ガラスガイド縁の曲率半径Rは小さくなる。

2) ウィンド板ガラスの引込みガイドラインと鉛直なZ軸との成す角度が大きくなるに応じて、半径の小さくなる樽形包絡面のX軸方向での板ガラスの前進変位量が大きくなり、ひいては又、(X軸からの)板ガラスの旋回度も大きくなる。

3) 板ガラス行程が大きくなるに応じて(要するに樽形包絡面に沿った回動角が大きくなるに応じて)調節操作中の(X軸からの)ウィンド板ガラスの旋回度が強くなる。

4) 鏡面対称軸線からのウィンド板ガラスの離隔度が大きくなるに応じて、要するにウィンド板ガラスが樽形包絡面の比較的強い湾曲領域内へずれ込むに応じて、(X軸からの)ウィンド板ガラスの旋回運動は一層強くなる。

本発明の有利な実施形態では、ウィンド板ガラスのガイド輪郭を湾曲成形することによって、該ガイド輪郭はウィンド板ガラスの旋回運動に適合されている。前部座席のウィンド板ガラスのガイド輪郭としては、Aピラー寄り又はBピラー寄りの板ガラス縁が機能し、後部座席のウィンド板ガラスについては、Bピラー

寄り又はCピラー寄りの板ガラス縁をガイド輪郭として使用することができる。ガイドレールの対応ガイド輪郭は、板ガラス縁に合致した、つまり該板ガラス縁とは反対の(凸面状又は凹面状の)相補的な湾曲部を有している。該湾曲部は、1つの円の円区分を実質的に形成しており、この円に沿って2つの基準点(ウィンド板ガラスのガイド縁の、例えば上位及び下位の両角隅点)がウインドリフタの作動中にシフトされる。

樽形包絡面の旋回角度がごく小さく、かつウインド板ガラスのガイド縁の「理想的な」湾曲が例えば1本の直線から約1mmの偏差しか有していないことを前提条件とすれば、湾曲したガイド縁を省くことが可能である。大抵はドア体のガイド成形材が、これによって生じる僅かなギャップをカバーすることができる。

X軸-Z軸平面へのガイドレールの投影は円弧状の輪郭を生じ、またY軸-Z軸平面に投影されたガイドレールの輪郭も湾曲されているので、ガイドレールは、それとなく螺旋状の形状を有している。従ってウインド板ガラスのシフト時に、実質的にZ軸方向に行われるウインド板ガラスの旋回運動とX軸方向の前進変位運動の重畠が生じる。

本発明は、特に材料的に経費のかかる特殊構造を排除して低廉なダブルストランド・ケーブル式ウインドリフタを採用しようとする場合には、球面状に湾曲された総てのウインド板ガラスをシフトさせるのに適し

ている。本発明の限界は、仮想樽形包絡面の（Z軸に平行な）鏡面対称軸線がウインド板ガラスをほぼ中央で分割している場合に生じる。このような特殊ケースにおけるウインド板ガラスは、傾動運動を行うことはないので、従来慣用のダブルストランド・ケーブル式ウインドリフタによって問題なく調節することができる。

図面の簡単な説明

図1aは、球面状に湾曲されたウインド板ガラスの本発明によるシフト運動時の非旋回位置と旋回位置における仮想樽形包絡面を対応させて示した、最上位に位置するウインド板ガラスの側面図である。

図1bは図1aをX軸方向から見た概略図である。

図2aは従来技術に基づくケーブル式ウインドリフタによるウインド板ガラスのシフト運動時の最上位と最下位における球面状に湾曲されたウインド板ガラスの側面図である。

図2bは図2aをX軸方向から見た概略図である。

図3はウインド板ガラスを付加的にX軸方向に変位させて示した凹面状にカットされたガイド輪郭を有するウインド板ガラスの図1a相当図である。

図4 a は 3 つの付加的な中間位置を有する ウィンド板ガラスの図3相当図である。

図4 b は 本発明を明確にするために仮想樽形包絡面及びこれに接続した ウィンド板ガラスの 旋回領域の上

方位位置と下方位置との間の 旋回角度を著しく誇張して示した、図4 a からの拡大部分図である。

図5 は 自動車の 2 枚の サイド板ガラスを有する 鏡面対称的な 樽形包絡面の 側面図である。

発明を実施するための 最良の 形態

次に 図面に基づいて 本発明の 実施例を 詳説する。

本発明は、 実質的に 閉じた ケーブルループ から成る 一般に 公知の ダブルストラップ・ケーブル式 ウィンドリフタ を 基礎とする ものであり、 前記 ケーブルループ は、 駆動装置に 結合された ケーブルドラム 並びに 平行な ガイドレール の 端部に 設けた 2 対の ケーブルガイド を 介して 案内されている。 ガイドレール 上には、 ウィンド板ガラス に 結合可能な 摺動可能 の 滑子 が 支承されている。

本発明では 前記 ガイドレール は X 軸 - Z 軸 平面 でも Y 軸 - Z 軸 平面 でも 曲率を 有し、 しかも 仮想樽形包絡面上 における ウィンド板ガラス の 位置 に 関連して シフト運動 中に 該 ウィンド板ガラス に、 板ガラス 下縁 を 平行に 保つ 旋回運動 を 行わせる ような 曲率 を 有している。 これ によって ウィンド板ガラス は、 板ガラス の 初期位置 と 対応関係 にある 仮想樽形包絡面上 に 常に 3 点で 接触して 位置している。

図1 a の 概略側面図 では、 球面状に 溝曲された ウィンド板ガラス 1 o, 1 u が、 自動車ドア内 における 上下の 両極限位置 で 図示されている。 ウィンド板ガラス

1 o の 上限位置 では 該 ウィンド板ガラス は 仮想樽形包絡面 2 o の 構成部分 で あり、 該 包絡面 の 回転対称軸線 2 0 o は、 板ガラス 下縁 1 0 u に 対して 平行に 延びて いる。 この ウィンド板ガラス 1 o, 1 u は 垂直な 引込み を 保証せねば ならない ので、 左右の 板ガラス 側縁 1 0 l, 1 0 r は、 これ と 対応関係 にある 樽形包絡面 2 o, 2 u の 鏡面対称軸線 3 0 o, 3 0 u に 対して 平行に 延びる ように カットされ

ている。

下限位置1uへウインド板ガラスを降下させる場合、仮想の樽形包絡面2₀は見掛け上、該樽形包絡面2_uの最下位位置へ旋回し、この場合見掛けの旋回支点は上限位置における樽形包絡面のX軸線2₀₀と下限位置における樽形包絡面のX軸線2₀_uとの交点Sに位置する。これによってウインド板ガラス1₀、1uも等角度の旋回運動を行う。ウインド板ガラス1uの下限位置において該ウインド板ガラスはなお3つの接触点で仮想の対応樽形包絡面2₀と接触している。仮想の樽形包絡面2₀に沿って球面状に湾曲されたウインド板ガラス1₀、1uをシフトさせる際の本発明の幾何学的条件に基づいて、板ガラス下縁10uの平行案内が達成され、この平行案内こそは、ただ1つの閉じたケーブルループでもってダブルストランド・ケーブル式ウインドリフタを摩擦無く使用するための前提条件である。こうして樽形包絡面2₀はシフト運動中、ウインド板ガラス1₀、1uと共に樽形包絡面の最

下位位置2uへ旋回する。こうしてのみ板ガラス行程Hが、リフタ系内又ドア脇内でロックすることなくダブルストランド・ケーブル式ウインドリフタによって保証される。

ここですでに指摘しておくが、ウインド板ガラス1₀の板ガラス下縁10uは最上位位置における樽形包絡面2₀のX軸線2₀₀に対して角度をとることもできる。しかしこの手段は、板ガラスの各位置における板ガラス下縁10uが常に相互に平行に延びるという点をいささかも改変するものではない。

図1bは図1aをX軸方向から見た概略図であるが、この場合、球面状に湾曲されたウインド板ガラス1₀、1uの、このX軸方向で投影された面は陰影を施して強調されている。この図面から又、ウインド板ガラスが板ガラス行程H分だけシフトされた後にウインド板ガラス1₀の板ガラス下縁10uがウインド板ガラス1uの板ガラス下縁10uに対して平行に延びていることも明確に確認することができる。更に図1bの図示から推考できるように、上限位置におけるウインド板ガラス1₀は、未旋回の最上位の樽形包絡面2₀に対応関係にある。該樽形包絡面2₀は、上方位置における樽形包絡面の大径の円形端面2_g₀と上方位

置における樽形包絡面の対応する小径の円形端面 $2 k_0$ によって示唆されている。但しこの場合の樽形包絡面 2_0 の断面は板ガラス左側縁 $1_0 1$ 及び板ガラス右側縁 $1_0 r$ に直接沿って断面されるものとする。

定義上の出発点として、上限位置におけるウインド板ガラス 1_0 が、対応する仮想の樽形包絡面 2_0 の一部分を正確に模写するものである以上、該ウインド板ガラス 1_0 の左右の板ガラス側縁 $1_0 1$, $1_0 r$ は、回転対称軸線 $2_0 0$ を有する最上位位置における樽形包絡面 2_0 に所属する円形端面 $2 g_0$, $2 k_0$ の輪郭に合致する。但し念のために断っておくが、本発明を明確にするために、単純化すると同時にまた誇張された図示法を選択せざるを得なかった。従ってウインド板ガラス 1_u の角隅点の位置を実際比で図示することはできなかった。ここで留意すべきことは、ウインド板ガラス 1_0 , 1_u のシフト運動時にその角隅点が X 軸方向に移動し、従って樽形包絡面 2_0 の大きい方の半径上又は小さい方の半径上に位置することになる点である。

最下位位置における樽形包絡面の回転対称軸線の、X 軸方向に位置している小径の円形端面 $2 k_u$ からの出口点が符号 $2_0 u$ で図示されている。ウインド板ガラス 1_u の下限位置においては、該ウインド板ガラスの表面は、旋回した樽形包絡面 2_u との均質領域を模写するものではない。

図 2 a 及び図 2 b には、明細書の導入部において説明したドイツ連邦共和国特許出願公開第 4008229 号明細書に基づいて公知になっているようなケーブ

ル式ウンドリフタによって調節可能なウインド板ガラス 1_0 , 1_u が、既に上で述べた実施例に対比して、類比的に図示されている。

図 2 a 及び図 2 b によれば、ウインド板ガラス 1_0 , 1_u のシフトは同一の樽形包絡面 2 上で行われ、しかも該樽形包絡面上で所定の角回転が許される。その場合ウインド板ガラス 1_0 , 1_u は、ガイド縁として機能する板ガラス右側縁 $1_0 r$ の領域では、板ガラス左側縁 $1_0 1$ よりも大きな距離を強制的に進行する。このことは、異なった行程長 H_1 と H_r に相当し、その結果、上限位置におけるウインド板ガラス 1_0 の板ガラス下縁 $1_0 u$ と、下限位置におけるウインド板ガ

ラス1uの板ガラス下縁10uとの間に角度位置が生じることになる。

引込みエッジ(引込みガイドライン)として機能する板ガラス右側縁10rの傾斜に基づいて、ウィンド板ガラスのシフト運動中にX軸方向での前進変位運動が同時に生じる。

図2bにおいても、ウィンド板ガラス10と1uとの板ガラス下縁10uは、板ガラス左側縁の行程長H1と板ガラス右側縁の行程長Hrが異なっていることに基づいて平行に延びていないことが良く判る(図1bと比較対照されたい)。

図3には、図1aに大筋において合致している本発明の実施形態が図示されている。しかしこの場合はウ

ィンド板ガラス10のために、Z軸に対して平行な垂直の引込み方向は選ばれていず、むしろZ軸に対して角度を成して延びる引込みガイドラインが選ばれています。但し該引込みガイドラインは、通常のように直線を描くのではなく、シフト動作中におけるウィンド板ガラス10、1uの旋回運動に基づいて1つの円弧を描く。板ガラス右側縁10rを半径Rのガイド縁として適当にカットし、かつ車体側の板ガラスガイド領域を対応した凸面状に構成した場合には、正確な板ガラス案内が可能になる。

移動する瞬間極点の問題点を明確にするために図4aには、図3の実施形態に依拠してウィンド板ガラス1の中間位置1'、1"及び1'が、また図4bには、著しく誇張した部分的詳細図が図示されている。

図4aによれば、基準点100o(板ガラス上縁10oと、ガイド縁としての板ガラス右側縁10rとによって形成された角隅点)は、ウィンド板ガラス1が如何なる位置にあるかには関わりなく、極点Pを起点とする半径Rを有する円弧上にほぼ位置している。その場合、前記半径Rは、ガイド縁10rにほぼ直交するものでなければならない。

しかし図4bの(誇張して示した)拡大図から判るようにウィンド板ガラス1'、1"、1'の中間位置において、ガイド縁10r'、10r"、10r"上の対応した基準点100'、100"、100"

における直交線は等長の場合、共通の極点を形成せず、移動する瞬間極点 P' , P'' , P''' を形成する。直交線を延長した場合でも、これらの直交線は異なった部位で交わる。

シフト運動中に旋回し、場合によっては同時にX軸方向に変位する樽形包絡面 2_0 , 2_u のウインド板ガラス1の複合螺線形運動経過は単純な数学的関係において説明することはできない。とは云え反復的設計法によって、極めて満足のいく技術的解決に到達することが可能である。その場合、個々のケースに適合した限界条件（例えば引込みガイドラインとZ軸との成す角度）が十二分に考慮される。

図5の概略図は、1両の自動車に所属する2つのウインド板ガラス11及び12を含む仮想の樽形包絡面2を示し、この場合ウインド板ガラス11, 12の上限位置は実質的に回転対称軸線 2_0 よりも上方に位置している。前記ウインド板ガラス11はその右側縁領域において鏡面対称軸線 3_0 によって交差される。該ウインド板ガラスの右ガイド線はZ軸線に対して傾斜している。前記の本発明によるウインド板ガラス11の下降時に、樽直径の小さくなる方向に前進変位が生じ、かつ逆時計回り方向の旋回運動が惹起される。これに対して樽形包絡面2の右半部に位置している他方のウインド板ガラス12は下降時に時計回り方向の旋回運動を行う。

勿論、個々のウインド板ガラスの樽形包絡面の幾何学的データを異ならせることによって、同一車両の2つのウインド板ガラスを本発明によって作動させることも可能である。

符号の説明

1 ウインド板ガラス、 1_0 上限位置におけるウインド板ガラス、
 1_u 下限位置におけるウインド板ガラス、 $1'$ 上位中間位置におけるウインド板ガラス、 $1''$ 中位中間位置におけるウインド板ガラス、 $1'''$ 下位中間位置のウインド板ガラス、 101 板ガラス左側縁、 $10r$ 板ガラス右側縁、 $10r'$ 上位中間位置の板ガラス

右側縁、 10 r" 中位中間位置の板ガラス右側縁、 10 r'"
下位中間位置の板ガラス右側縁、 10 o 板ガラス上縁、 10 u 板
ガラス下縁、 100 基準点、 1000 最上位角隅点、 100u
最下位角隅点、 100' 上位中間位置の基準点、 100" 中
位中間位置の基準点、 100'" 下位中間位置の基準点、 2 樽形包
絡面の輪郭、 2o 最上位位置における樽形包絡面の輪郭、 2u 最下
位位置における樽形包絡面の輪郭、 2g 樽形包絡面の大径の円形端面の輪
郭、 2go 上方位置における樽形包絡面の大径の円形端面の輪郭、 2g
u 下方位置における樽形包絡面の大径の円形端面の輪郭、 2k 樽形包
絡面の小径の円形端面の輪郭、 2ko 上方位置における樽形包絡面の小径
の円形端面の輪郭、 2ku 下方位置における樽形包絡面の小径の円形端面
の輪郭、 20 樽形包

絡面のX軸線と回転対称軸線、 20o 最上位位置における樽形包絡面の回
転対称軸線の出口点、 20u 最下位位置における樽形包絡面の回転対称軸
線の出口点、 P 極点、 P' 上位中間位置における瞬間極点、 P"
中位中間位置における瞬間極点、 P'" 下位中間位置における瞬間
極点、 S 交点、 R 半径、 H 板ガラス行程、 Hr 板ガラ
ス右側縁の行程長、 Hl 板ガラス左側縁の行程長、 11 前部座席の
ウィンド板ガラス、 12 後部座席のウィンド板ガラス、 30 樽形包
絡面のZ軸線と鏡面対称軸線、 30o 最上位位置における樽形包絡面の鏡
面対称軸線、 30u 最下位位置における樽形包絡面の鏡面対称軸線

【図1】

Fig. 1a

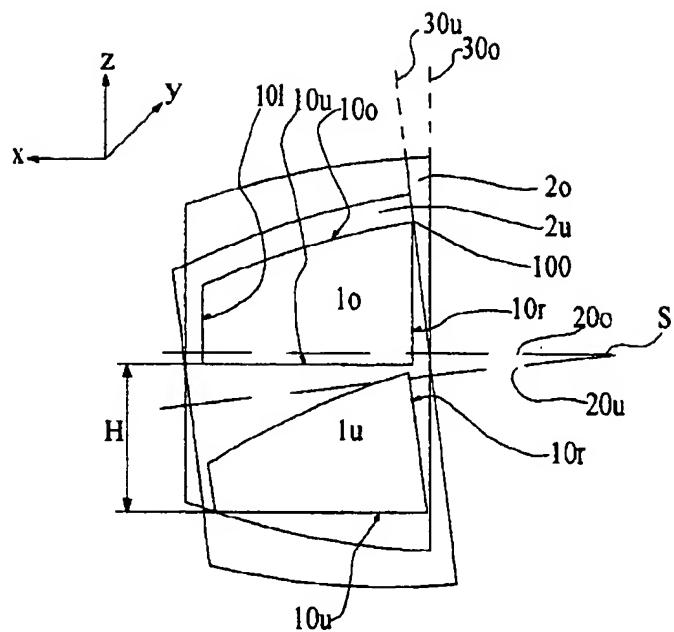
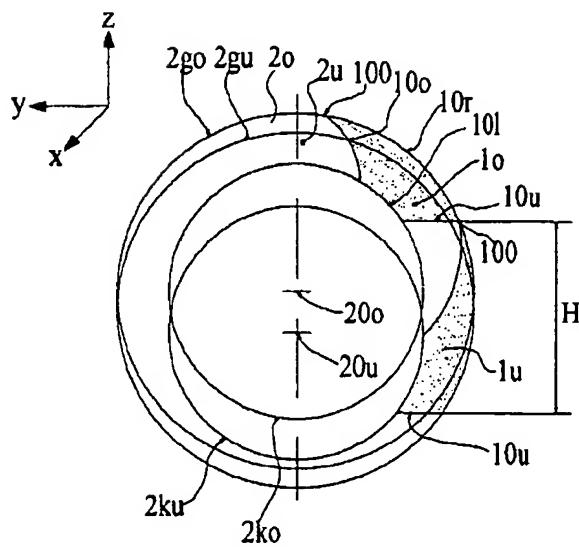


Fig. 1b



【図2】

Fig. 2a

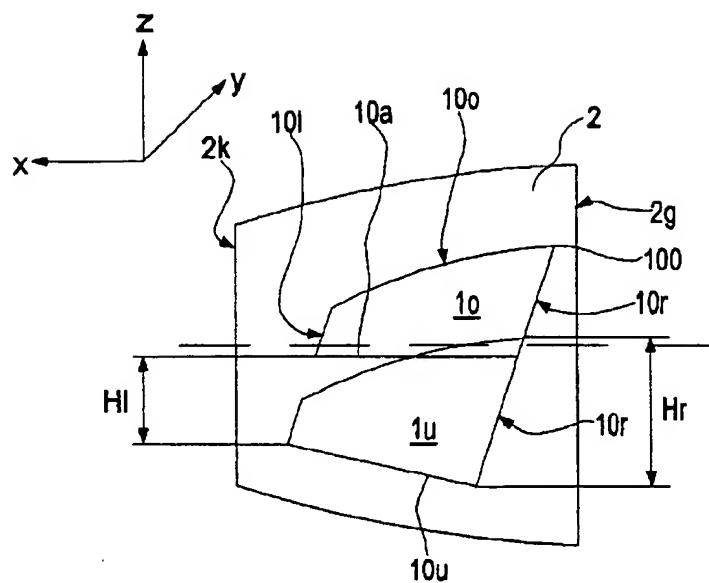
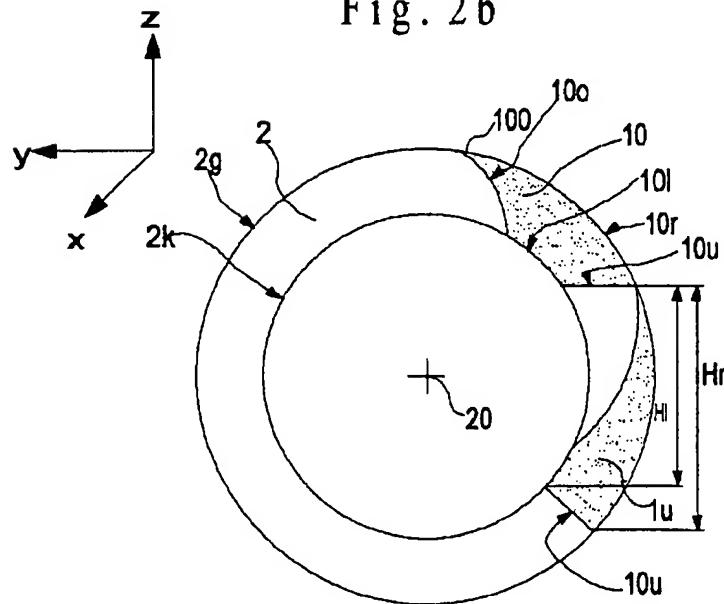
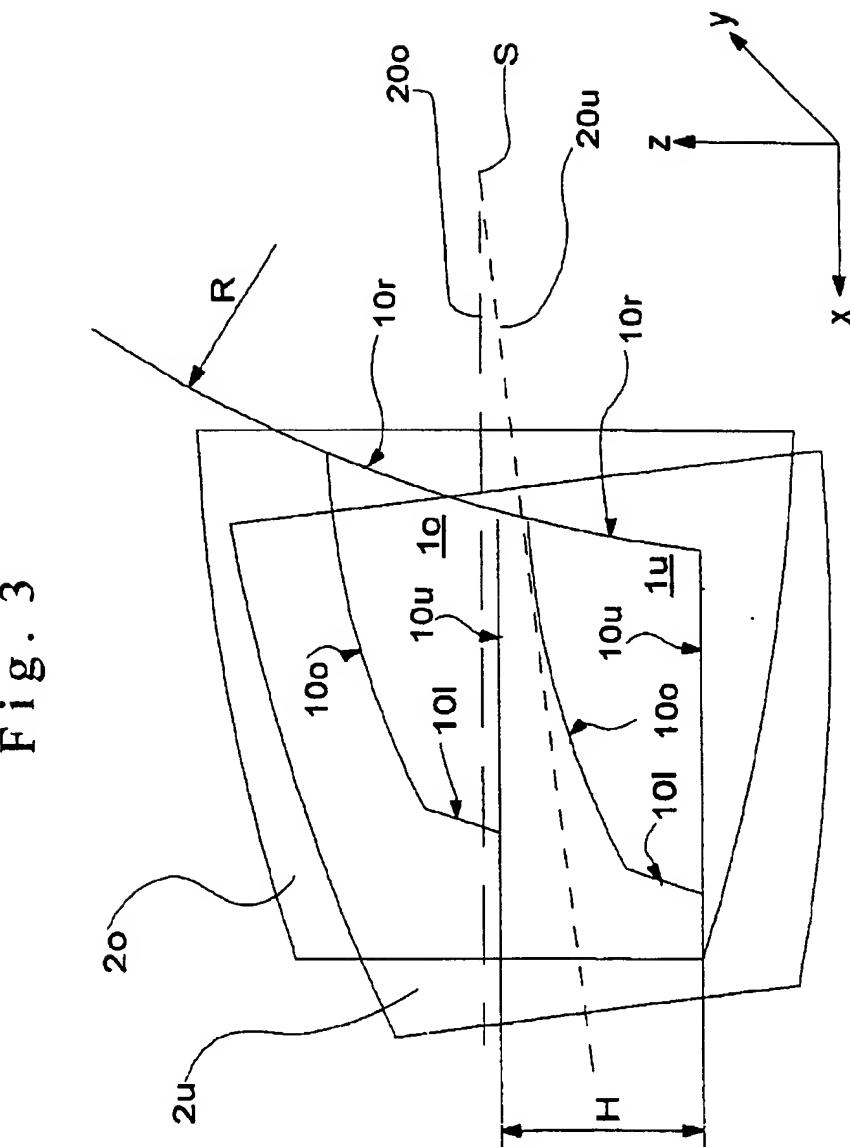


Fig. 2b



【図3】



【図4】

Fig. 4 a

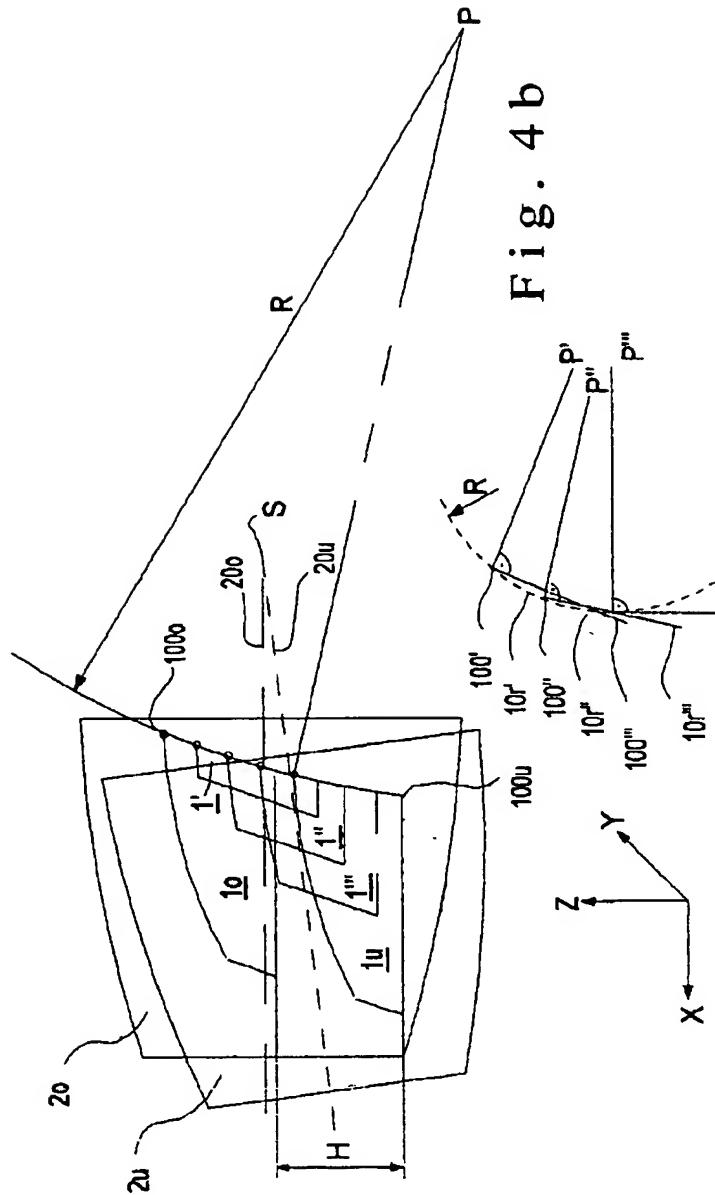
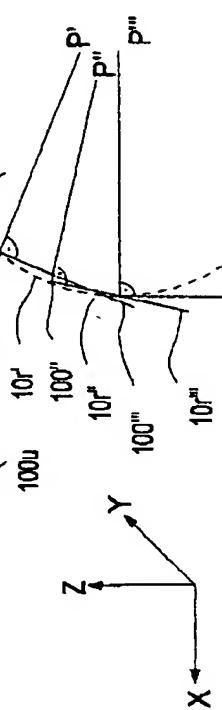
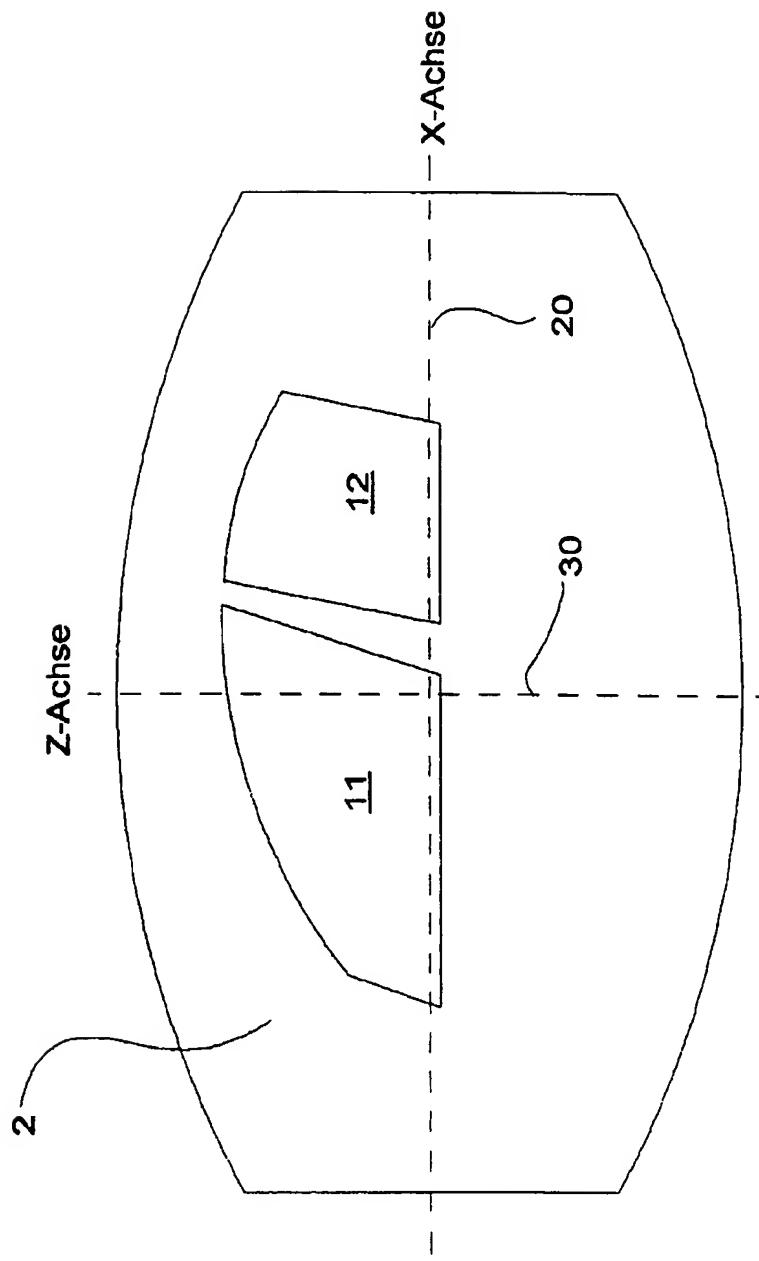


Fig. 4 b



【図5】

Fig. 5



【手続補正書】特許法第184条の8第1項

【提出日】1997年3月13日

【補正内容】

この公知の板ガラス昇降装置の1実施形態によれば、異なった直径を有するケーブルドラムのコンビネーションが提案されており、このコンビネーションによって適当な变速比が両ケーブルループ間に生じる。従って、球面状に湾曲されたウインド板ガラスの特殊な引込みガイド条件に対するウインドリフタの適合が可能になる。より小さな板ガラス曲率半径の側には、より低いシフト速度並びにより小さなシフト距離の連行子を有するガイドレールが配置され、またより大きな板ガラス曲率半径の側には、より高いシフト速度並びにより大きなシフト距離の連行子を有するガイドレールが配置されることになる。

しかしながらこの場合、球面状に強く湾曲されたウインド板ガラスを前記のウインドリフタによって調節するために必要になる技術経費が比較的高いという欠点がある。しかもケーブルループ及びケーブルドラムのダブル構成によって、更なる経費高が惹起されることになる。

曲率を適合された2つのガイドレールを有し、かつウインドリフタの作動中に等長の行程を辿る連行子（滑子）を備えた慣用のダブルストランド・ケーブル式ウインドリフタによって、球面状に湾曲したウインド板ガラスを調節することはドイツ連邦共和国特許第3718840号明細書に基づいて公知ではあるが、この場合、ウインド板ガラスの降下時に傾動運動を招来

し、ひいてはウインド板ガラスが少なくとも1点でドア胴と摩擦接触することになる。これによってウインドリフタ系内及びドア胴内にロックが生じる。更に又、リフタ系内摩擦の増大は高い駆動モーメントを必要とし、従ってより強力、より高価なモータを必要とするという欠点がある。

本発明では前記ガイドレールはX軸-Z軸平面でもY軸-Z軸平面でも曲率を有し、しかも仮想樽形包絡面上におけるウインド板ガラスの位置に関連してシフト運動中に該ウインド板ガラスに、板ガラス下縁を平行に保つ旋回運動を行わせ

るような曲率を有している。これによってウインド板ガラスは、板ガラスの初期位置と対応関係にある仮想樽形包絡面上に常に3点で接触して位置している。

図1aの概略側面図では、球面状に湾曲されたウインド板ガラス1o, 1uが、自動車ドア内における上下の両極限位置で図示されている。ウインド板ガラス1oの上限位置では該ウインド板ガラスは仮想樽形包絡面2oの構成部分であり、該包絡面の回転対称軸線20oは、板ガラス下縁10uに対して平行に延びている。このウインド板ガラス1o, 1uは垂直な引込みを保証せねばならないので、板ガラス左側縁10lと板ガラス右側縁10rは、これと対応関係にある樽形包絡面2o, 2uの鏡面対称軸線30o, 30uに対して平行に延びるようにカットされている。

定義上の出発点として、上限位置におけるウインド板ガラス1oが、対応する仮想の樽形包絡面2oの一部分を正確に模写するものである以上、該ウインド板ガラス1oの板ガラス左側縁10l及び板ガラス右側縁10rは、回転対称軸線20oを有する最上位位置における樽形包絡面2oに所属する円形端面2go, 2koの輪郭に合致する。但し念のために断っておくが、本発明を明確にするために、単純化すると同時にまた誇張された図示法を選択せざるを得なかった。従ってウインド板ガラス1uの角隅点の位置を実際の比率で図示することはできなかった。ここで留意すべきことは、ウインド板ガラス1o, 1uのシフト運動時にその角隅点がX軸方向に移動し、従って樽形包絡面2oの大きい方の半径上又は小さい方の半径上に位置することになる点である。

最下位位置における樽形包絡面の回転対称軸線の、X軸方向に位置している小径の円形端面2kuからの出口点が符号20uで図示されている。ウインド板ガラス1uの下限位置においては、該ウインド板ガラスの表面は、旋回した樽形包絡面2uとの均質領域を模写するものではない。

図2a及び図2bには、明細書の導入部において説明したドイツ連邦共和国特許出願公開第4008229号明細書に基づいて公知になっているようなケーブル式ウインドリフタによって調節可能なウインド板ガ

ラス1o, 1uが、既に上で述べた実施例に対比して、類比的に図示されている。
。

図2a及び図2bによれば、ウインド板ガラス1o, 1uのシフトは同一の樽形包絡面2上で行われ、しかも該樽形包絡面上で所定の角回転が許される。その場合ウインド板ガラス1o, 1uは、本実施例ではガイド縁10fとして機能する板ガラス右側縁10rの領域では、板ガラス左側縁10lよりも大きな距離を強制的に進行する。このことは、異なった行程長H1とHrに相当し、その結果、上限位置におけるウインド板ガラス1oの板ガラス下縁10uと、下限位置におけるウインド板ガラス1uの板ガラス下縁10uとの間に角度位置が生じることになる。

引込みエッジ(引込みガイドライン)として機能する板ガラス右側縁10rの傾斜に基づいて、ウインド板ガラスのシフト運動中にX軸方向での前進変位運動が同時に生じる。

図2bにおいても、ウインド板ガラス1oと1uとの板ガラス下縁10uは、板ガラス左側縁の行程長H1と板ガラス右側縁の行程長Hrが異なっていることに基づいて平行に延びていないことが良く判る(図1bと比較対照されたい)。

図3には、図1aに大筋において合致している本発明の実施形態が図示されている。しかしこの場合はウインド板ガラス1oのために、Z軸に対して平行な垂

直の引込み方向は選ばれていず、むしろZ軸に対して角度を成して延びる引込みガイドラインが選ばれている。但し該引込みガイドラインは、通常のように直線を描くのではなく、シフト動作中におけるウインド板ガラス1o, 1uの旋回運動に基づいて1つの円弧を描く。板ガラス右側縁10rを半径Rのガイド縁10fとして適当にカットし、かつ車体側の板ガラスガイド領域を対応した凸面状に構成した場合には、正確な板ガラス案内が可能になる。

移動する瞬間極点の問題点を明確にするために図4aには、図3の実施形態に依拠してウインド板ガラス1の中間位置1', 1"及び1'''が、また図4bには、著しく誇張された部分的詳細図が図示されている。

図4aによれば、基準点100o(板ガラス上縁10oとガイド縁10fとに

よって形成される角隅点) は、ウインド板ガラス 1 が如何なる位置にあるかには関わりなく、極点 P を起点とする半径 R を有する円弧上にほぼ位置している。その場合、前記半径 R は、ガイド縁 10 f にほぼ直交するものとする。

しかし図 4 b の (誇張して示した) 拡大図から判るようにウインド板ガラス 1', 1'', 1''' の中間位置において、ガイド縁 10 f', 10 f'', 10 f''' 上の対応した基準点 100', 100'', 100''' における直交線は、等長の場合には、共通の極点を

形成せず、移動する瞬間極点 P', P'', P''' を形成する。直交線を延長した場合でも、これらの直交線は異なった部位で交わる。

シフト運動中に旋回し、場合によっては同時に X 軸方向に変位する樽形包絡面 20, 2u のウインド板ガラス 1 の複合的な螺旋形運動経過は単純な数学的関連において説明することはできない。とは云え反復的設計法によって、極めて満足のいく技術的解決に到達することが可能である。その場合、個々のケースに適合した限界条件 (例えば引込みガイドラインと Z 軸との成す角度) を十二分に考慮することができる。

図 5 の概略図は、1両の自動車に所属する 2 つのウインド板ガラス 11 及び 12 を含む仮想の樽形包絡面 2 を示し、この場合ウインド板ガラス 11, 12 の上限位置は実質的に回転対称軸線 20 よりも上方に位置している。前記の両ウインド板ガラス 11 はその右側縁領域において鏡面対称軸線 30 によって交差される。ガイド縁 (本例ではウインド板ガラス右側縁) は Z 軸に対して傾斜されている。前記の本発明によるウインド板ガラス 11 の下降時に、樽直径の小さくなる方向に前進変位が生じ、かつ逆時計回り方向の旋回運動が惹起される。これに対し樽形包絡面 2 の右半部内に位置している他方のウインド板ガラス 12 は下降時に時計回り方向の旋回運動を行う。

符号の説明

1	ウインド板ガラス、	10	上限位置におけるウインド板ガラス、
1u	下限位置におけるウインド板ガラス、	1'	上位中間位置における

ウインド板ガラス、 1" 中位中間位置におけるウインド板ガラス、 1"
 ' 下位中間位置のウインド板ガラス、 101 板ガラス左側縁、 10
 r 板ガラス右側縁、 10f ガイド縁、 10f' 上位中間位置の
 ガイド縁、 10f" 中位中間位置のガイド縁、 10f" ' 下位中間
 位置のガイド縁、 10o 板ガラス上縁、 10u 板ガラス下縁、 1
 00 基準点、 100o 最上位基準点、 100u 最下位基準点、
 100' 上位中間位置の基準点、 100" 中位中間位置の基準点、
 100" ' 下位中間位置の基準点、 2 樽形包絡面の輪郭、 2o
 最上位位置における樽形包絡面の輪郭、 2u 最下位位置における樽形包
 繼面の輪郭、 2g 樽形包絡面の大径の円形端面の輪郭、 2go 上方
 位置における樽形包絡面の大径の円形端面の輪郭、 2gu 下方位置におけ
 る樽形包絡面の大径の円形端面の輪郭、 2k 樽形包絡面の小径の円形端面
 の輪郭、 2ko 上方位置における樽形包絡面の小径の円形端面の輪郭、
 2ku 下方位置における樽形包絡面の小径の円形端面の輪郭、 20 樽
 形包絡面のX軸線及び回転対称軸線、 20o 最上位位置における樽形包絡
 面の回転対称軸線の出口点、 20u 最下位位置における樽形包絡面の回転
 対称軸線の出口点、 P 極点、 P' 上位中間位置における瞬間極点、
 P" 中位中間位置における瞬間極点、 P" ' 下位中間位置におけ
 る瞬間極点、 S 交点、 R 半径、 H板ガラス行程、 Hr 板ガ
 ラス右側縁の行程長、 Hl 板ガラス左側縁の行程長、 11 前部座席
 のウインド板ガラス、 12 後部座席のウインド板ガラス、 30 樽形
 包絡面のZ軸線と鏡面対称軸線、 30o 最上位位置における樽形包絡面の
 鏡面対称軸線、 30u 最下位位置における樽形包絡面の鏡面対称軸線

請求の範囲

1. 球面状に湾曲されたウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"
 ') 用の板ガラスガイドであって、前記ウインド板ガラスが、車両ドアのドア胴
 内へ降下可能でありかつ実質的に、X軸方向として規定された車両長手方向の仮

想樽形包絡面 (2, 2o, 2u) の構成部分を成し、かつドア胴内に取付けられていて2つのガイドレールを有するガイド機構を備えたダブルストランド・ケーブル式ウインドリフタによって、Z軸方向として規定されていて前記車両長手方向に対して直角に延びるほぼ車両鉛直軸の方向にシフト可能であり、前記ケーブル式ウインドリフタのガイドレールが、Y軸方向として規定されていて前記のX軸方向に対してもZ軸方向に対しても直角な横方向に延びる車両横方向で板ガラス曲率に適合された第1湾曲部を有しあつ両端部に、閉じたケーブルループを案内するケーブル変向ガイド機構を支持しており、前記ケーブルループが、前記ガイドレールに沿って案内されるウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') 用の連行子と固定的に結合されかつ駆動ユニットに接続されており、該駆動ユニットによってウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') が下限位置と上限位置との間の範囲内を動かされる

形式のものにおいて、両ガイドレールが付加的に、第1湾曲部に対して横方向に夫々第2湾曲部を有し、板ガラス右側縁 (10r) 又は板ガラス左側縁 (10l) がガイド縁 (10f, 10f', 10f", 10f"') として使用され、該ガイド縁が所属のガイドレールに対応したガイド輪郭を有し、ウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') の前記ガイド縁 (10f, 10f', 10f", 10f"') からX軸方向に隔てて位置する旋回支点 (P, P', P", P"') を中心とする、板ガラス下縁 (10u) を平行に維持する旋回運動がウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') のシフト運動に付加的に重畠されるようになっており、しかも前記ウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') がこれに沿ってシフトされるところの仮想樽形包絡面 (2, 2o, 2u) が、前記ウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') のシフト方向に同時に旋回し、かつ上下の両極限位置間におけるシフト運動中、前記ウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') の3点、特に該ウインド板ガラスの3つの角隅点が常時、一方の極限位置におけるウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') に対して対応関係にある仮想樽形包絡面 (2, 2o, 2u) 上に位置していることを特徴とする、

球面状に湾曲されたウインド板ガラス用の板ガラスガイド。

2. ウィンド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') がシフト運動中に旋回するところの旋回支点が、移動する瞬間極点 (P', P", P"') である、請求項1記載の板ガラスガイド。

3. ウィンド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') のガイド縁 (10f, 10f', 10f", 10f"') が旋回平面内で湾曲されており、かつガイドレールの対応したガイド輪郭、又は無枠ドアの場合には車体の隣接輪郭が、前記ウィンド板ガラスのガイド縁に相応して湾曲されており、しかもX軸-Z軸平面内に投影された湾曲部が、ウィンド板ガラスの作動時にウィンド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') のガイド縁 (10f, 10f', 10f", 10f"') の2つの基準点がシフトされるところの1つの円の円区分を形成する、請求項1記載の板ガラスガイド。

4. ガイド縁 (10f, 10f', 10f", 10f"') の基準点つまりウィンド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') の最上位角隅点 (100o) と最下位角隅点 (100u) がガイドライン上に位置している、請求項3記載の板ガラスガイド。

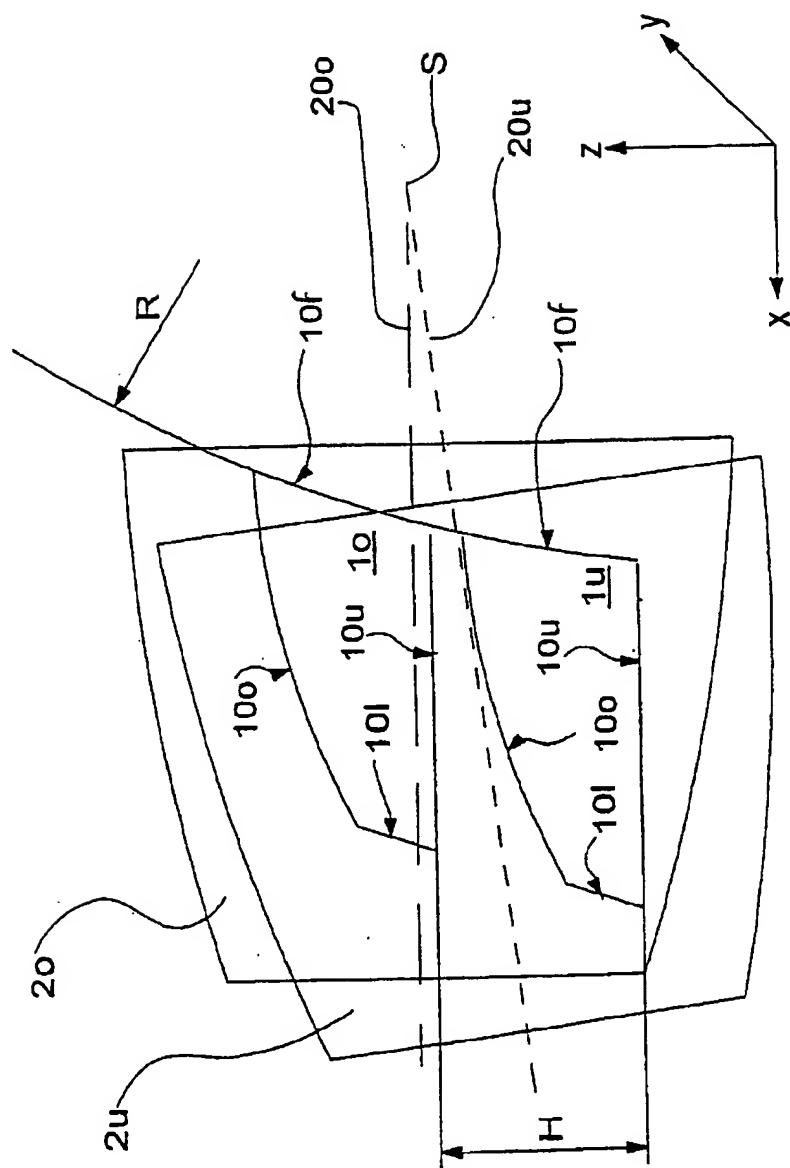
5. X軸-Z軸平面内に投影されたガイドレール輪

郭が、板ガラス作動中に樽形のウィンド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') を、シフト運動及び旋回運動以外に付加的にX軸方向に前進変位運動させるように湾曲されている、請求項1から4までのいずれか1項記載の板ガラスガイド。

6. ガイドレールが螺旋形に成形されており、これに基づいて、重畠する運動、つまり樽形のウィンド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1"') の旋回運動とX軸方向の前進変位運動が螺旋軌道を描く、請求項5記載の板ガラスガイド。

【図3】

Fig. 3



【図4】

Fig. 4 a

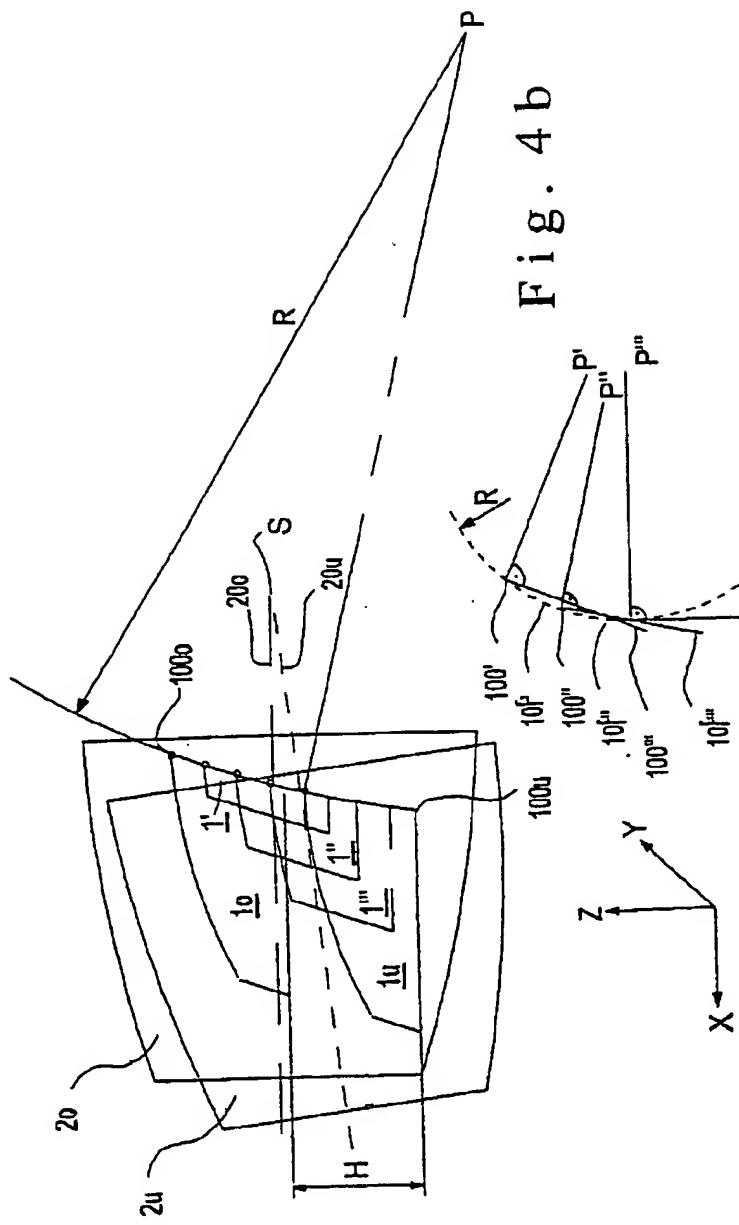


Fig. 4 b

【国際調査報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Internat.	Application No
PCT/DE 96/00286	

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER		
IPC 6 E05F11/48		
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC.		
B. FIELDS SEARCHED		
Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)		
IPC 6 E05F		
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched		
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practical, search terms used)		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category *	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	EP,A,0 064 135 (AUDI NSU AUTO UNION) 10 November 1982 see page 1, line 6 - line 31 see page 8, paragraph 2 see page 9, line 15 - line 38; claim 1; figures 4A,7 ----- DE,A,26 24 028 (NISSAN MOTOR) 9 December 1976 see page 5, paragraph 2; figures 1,2 -----	1
		1
<input type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of box C.		<input checked="" type="checkbox"/> Patent family members are listed in annex.
<p>* Special categories of cited documents :</p> <p>"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance</p> <p>"E" earlier document but published on or after the international filing date</p> <p>"L" document which may throw doubt on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)</p> <p>"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means</p> <p>"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed</p> <p>"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention</p> <p>"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone</p> <p>"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art</p> <p>"Z" document member of the same patent family</p>		
Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report	
11 June 1996	21. 06. 96	
Name and mailing address of the ISA	Authorized officer	
European Patent Office, P.B. 5818 Patenttaan 2 NL - 2280 HV Rijswijk Tel. (+ 31-70) 340-2040, Telex 31 651 epo nl Fax (+ 31-70) 340-3016	Guillaume, G	

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

Internat. Application No.
PCT/DE 96/00286

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)		Publication date
EP-A-64135	10-11-82	DE-A-	3116917	18-11-82
DE-A-2624028	09-12-76	JP-C-	1047002	28-05-81
		JP-A-	51141123	04-12-76
		JP-B-	55042231	29-10-80
		GB-A-	1546422	23-05-79
		US-A-	4069617	24-01-78

フロントページの続き

(72)発明者 ゲルハルト ホフマン
ドイツ連邦共和国 D-96253 ウンター
ジーマウ リヒテンフェルザー シュトラ
ーセ 34

【要約の続き】

に旋回し、かつ両極限位置間におけるシフト運動中、前記ウインド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1")、
1"') の3点が常時、一方の極限位置におけるウイン
ド板ガラス (1, 1o, 1u, 1', 1", 1") に
対して対応関係にある仮想樽形包絡面 (2o, 2u) 上
に位置している。